

令和5年度学びチャレンジリーディングスクール実施報告書(1年次)

学校名	北九州市立千代小学校		校長名	小椎葉 義明
令和5年度の 研究の実際	○ 研究主題			
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">考えを深め・広げ・課題解決につなぐ教科等の取組</div>			
	○ 研究のねらい			
	<p>「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的(アクティブ)に学び続けようとする子どもの育成を目指す。</p>			
○ 取組の概要				
(1)考えを深め、広げる学びを具体化する工夫				
【課題設定場面での工夫】				
				
<div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <p>3年生の道徳科では、Forms で事前アンケートを行い、児童の実態から道徳的価値への方向付けを行った。</p> </div>		<div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <p>2年生の道徳科では、教材の挿絵をテレビで確認し、登場人物の心情について考えをもてるようにした。</p> </div>		
【展開場面での工夫】				
				
<div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <p>5年生の算数科では、GIGA 端末や図形の切り貼り等、多様な方法で考え、試行錯誤しながら自分の考えをしっかりともてるようにした。</p> </div>		<div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <p>6年生の算数科では、全体での発表の前に少人数での話し合いを行い、自分の考えを友達と比較・検討できるようにした。</p> </div>		

【終末場面での工夫】



1年生の国語科では、読み取った内容をイメージできるように、動画を見せたり、動作化させたりすることで、理解が深まるようにした。

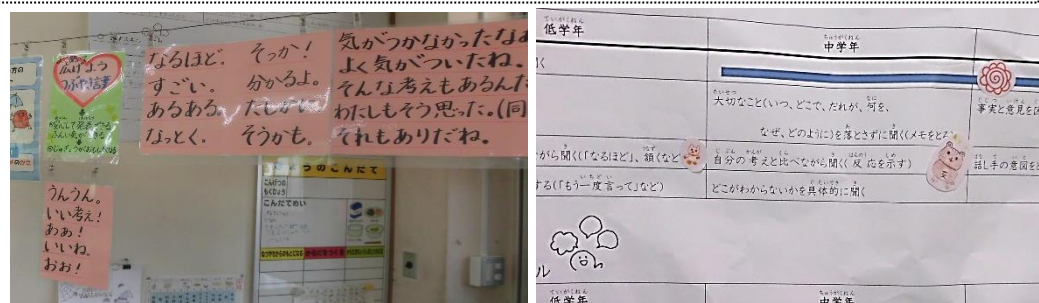


4年生の国語科では、それぞれの話合いの役割(司会・書記等)で振り返ったことを全体で発表し、児童が向上的変容を自覚できるようにした。

(2)学びの土台となる対話力の育成

○聞くスキル		
低学年	中学年	高学年
話す人に体を向けて聞く 最後までだまって聞く	→	
どんな内容かを考えながら聞く (「なるほど」、頷く等) わからないことは質問する (「もう一度言って」等)	大切なこと (5W1H) を落とさずに聞く (メモをとる) 自分の考えと比べながら聞く (反応を示す)	事実と意見を区別しながら聞く (メモをとる) 話し手の意図をとらえ、自分の考えと比べながら聞く
	どこがわからないかを具体的に聞く	
○話すスキル		
低学年	中学年	高学年
聞き手に体を向けて話す 聞き手の聞きやすい声で話す (声の大きさ、速さ等) その場にあった話し方で話す (声の大きさ、ていねい語) 順序よく話す 理由をつけて話す	→	
	つなぎ言葉をつかって話す 構成を工夫して話す 資料を指し示しながら話す (紙や図等)	相手や場に応じた内容や言葉づかいで話す 効果的な表現を用いて話す (引用、例示等)
	大切なこと (5W1H) を落とさずに話す	必要な資料等を選び、示しながら話す

全学級に「聞くスキル」「話すスキル」を掲示し、計画的・継続的に指導していった。



○ 成果

・ 自分の考えをもち、それを友達と比較・検討できるようにしたり、それぞれの学習場面で ICT を効果的に活用したりすることで、問題解決に向かって主体的に取り組む児童の姿が多く見られるようになってきた。

● 課題と次年度にむけて

・ 児童の「聞くスキル」「話すスキル」を向上させる取組を日常的に行うとともに、話し合い活動をコーディネートする教師の力を高める必要がある。
・ 今年度の実践をもとに、他教科等へと汎用させた実践研究を行う。

令和5年度の
成果と課題